

平成29年度事業報告

平成29年度一般財団法人狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下ご報告いたします。

第3期指定管理期間の4年目となった平成29年度の施設利用状況ですが、稼働率につきましては前年比からホールは63.2%で1.0%増、展示多目的室は60.7%で4.1%減、リハーサル室は83.3%で0.8%減となりました。ホールについては演奏会、発表会、講演会等で毎年、もしくは隔年で定期的に利用する個人、団体のリピーターが多く安定した利用状況となっています。毎年度、課題となっている平日利用の稼働率アップについては、29年度は前年度に比べ平日にセミナー、録音、イベントなどの利用があり、これらにより微増となりました。展示多目的室については4、7、8月が利用減となり、7、8月は特に例年、利用が少ない時期ですが、29年度は土、日の利用が少なくこれが減の要因となっています。また、懇親会、営業物販、セミナーなどでの定期的に利用する個人、団体はほぼ例年通りでしたが、展示多目的室を楽屋代わりとして、ホールと付随して利用するケースが減少したことも要因のひとつとなっています。リハーサル室0.8%減については許容範囲と捉えており、最近では個人での利用が多く見受けられます。

施設利用については引き続き、平日利用の促進を図り、特に展示多目的室については土日の空き情報の提供を積極的に行うなどを検討してまいります。

なお、修繕計画に基づき平成30年1月には約2週間をかけ、舞台搬出入エレベーターのワイヤー交換を行っております。

次に自主事業ですが、ホールは20事業22公演（共催、協力9公演を含む）、ロビーは6事業6公演を実施しました。多目的ホールということで毎年、多様なジャンルを取り上げていますが、チケットが完売となったのは6公演で、全般的に集客が予想以上に伸び悩む結果となりました。

ホールでの鑑賞型事業のポピュラー系では「森山良子（共催）」、「小野リサ」、「青春ヒットソンググラフィティ」が好評でしたが、初の宝塚ものとして取り上げた宝塚OGによる「ブルーモーメント」は収支比率は良かったものの、期待していた以上に集客が伸びませんでした。また、クラシック系では徐々に海外演奏団体として取り上げた「新イタリア合奏団」が非常に苦戦しました。参加型事業としては、毎回、好評で今回が3回目の実施となった公募による合唱団とプロの合唱団（今回は二期会合唱団）による「VIVA、コーラス」、7年ぶりとなった「清水和音」では子供たちのためにプレ・コンサートを、そして、隔年で行っているフレッシュ名曲コンサート（共催：東京都歴史文化財団）を実施しております。また、古典芸能系で初めて「日本舞踊」を取り上げ、出演者も吟味、愛好団体などの協力を仰ぎましたが、このジャンルの難しさを感じる結果となりました。子供向けの事業も2本実施しましたが、料金設定が低いにもかかわらず知名度に左右されたのか、集客に悩む結果となりました。

自主制作型事業は「オープンハウス」と「エコルマ・アンサンブルコンサート」を実施しました。「オープンハウス」は能をテーマに取り上げ、狛江在住の能楽師の方などの協力も得られ、充実した内容となり好評をいただきました。一方、「エコルマ・アンサンブルコンサート」では狛江ゆかりのピアニストとその仲間ら計4人による2台ピアノによる公演を実施しました。

また、例年通り狛江市からの委託協力事業として市内小学4～6年生を対象とした公共ホール音楽活性化事業ガラコンサートを実施した他、狛江市観光協会、狛江市と共催で「狛江の日」音楽祭を、支援型事業に関しては1団体を決定、実施に至っております。

例年になくチケット販売が厳しい結果となりましたが、引き続き個人、団体関係機関のご協力を仰ぐのはもちろんのこと、改めて販売、宣伝方法の強化を図り、近隣や公文協参加ホールなどとの情報交換も継続的に行い、満足いただける事業を実施して参りたいと存じます。